

学位論文審査の概要

博士の専攻分野の名称 博士（医学） 氏名 武藤 潤

主査 教授 白土博樹
審査担当者 副査 教授 松野吉宏
副査 教授 秋田弘俊
副査 教授 石川正純

学位論文題名

Predicting lymph node involvement in patients with primary non-small cell lung cancer

(非小細胞肺癌におけるリンパ節転移予測の研究)

本論文は過去の臨床データの集計から縦隔リンパ節転移の分布を解明し、術前因子からリンパ節転移の有無と範囲を予測することにより、非小細胞肺癌に対する縮小手術の適応とリンパ節郭清の縮小範囲を明らかにするものである。

審査にあたり以下の質問・意見があった。副査の石川教授から、N0、N1、N2でN1の方が高値に見えるとの質問があった。申請者は、組織型が混在した検討であるため SUVmax にばらつきがでたと回答した。副査の松野教授から、リンパ節郭清が十分に試行されたかを評価したのかとの質問があった。申請者は、郭清リンパ節個数が6個未満の症例は郭清不十分とし本検討から除外し検討したと返答した。また、FDG集積を認めない小径病変にはどのように対応したのかとの質問があった。申告者は、集積が無くても腫瘍が存在する部位で SUVmax を測定し、本検討で使用したと説明した。副査の秋田教授からは、開胸と胸腔鏡下手術ではリンパ節郭清に差はないのかとの質問があった。申告者は、胸腔鏡下手術でも十分なリンパ節郭清が可能であると説明した。主査の白土教授から、カットオフ値の設定は5年生存等を確認してからがよいと意見があった。また、腫瘍径が多変量解析で差が無かったのはなぜかと質問があった。申請者は、淡いすりガラス病変の縮小手術も目的としていたため、大きさよりも FDG の集積が有用であった可能性があると説明した。申告者は、意見について今後の課題として前向きに検討していく姿勢を示した。

本論文は非小細胞肺癌のリンパ節転移の予測因子として PET 検査による原発巣の SUVmax に着目した検討で、今後の肺癌の縮小手術の適応拡大に寄与するものである。

審査員一同は、上記の成果を高く評価し、大学院課程における研鑽や取得単位なども併せ、申請者が博士(医学)の学位を受けるのに十分な資格を有するものと判定した。